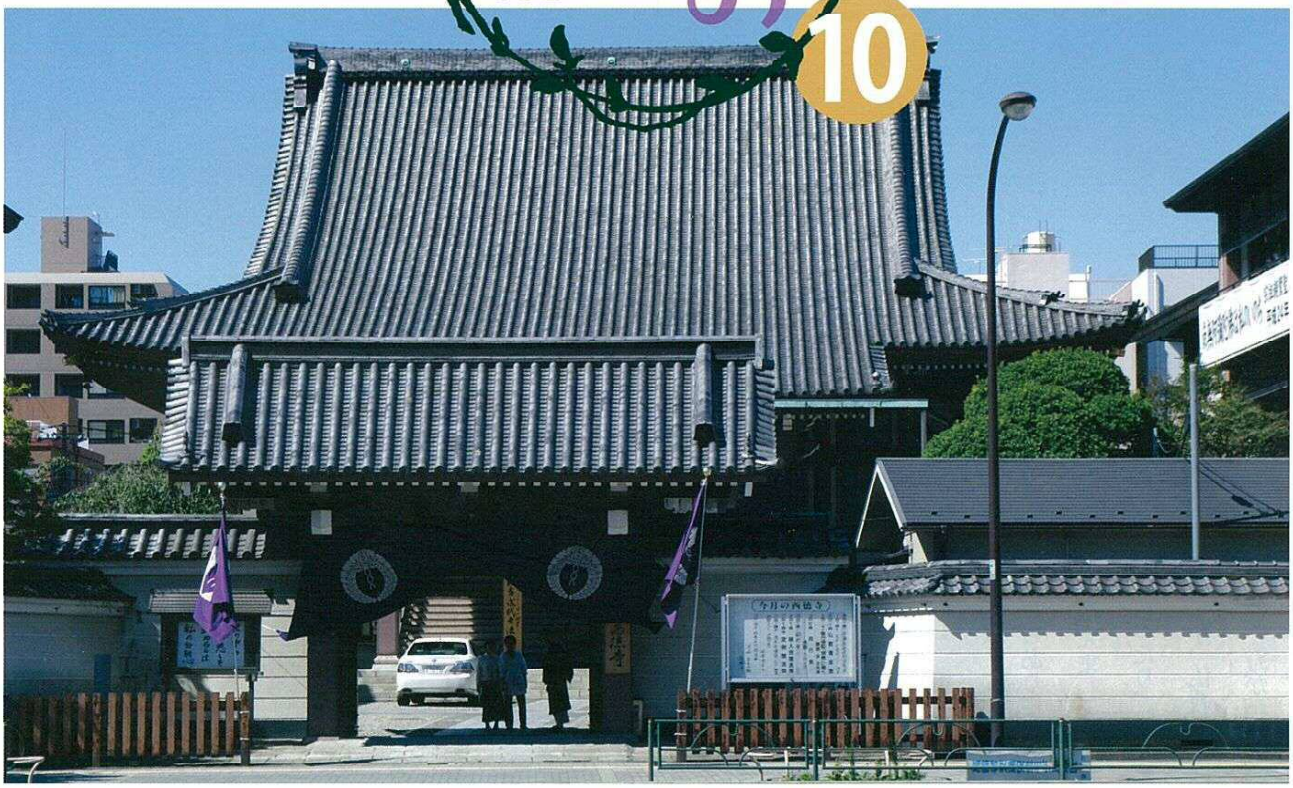
南無阿弥陀仏は
私のいのち

えこお 10

平成23年
10月号
NO. 405

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobiiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印 刷 日生印刷(株) 03-6862-3263



「遡るいのちの伝統」

親鸞聖人は九歳で得度式（出家）を受けられ、比叡山で二十年間の修行をされましたが、生死出ずべき道を見出すことができず、もがき苦しんでおられました。その後、苦悩を抱えたまま六角堂に百日間の参籠、さらに吉水におられた法然上人のもとへ百ヶ日通い続け、ついに専修念仏の道に立たれる機縁に出遇われました。

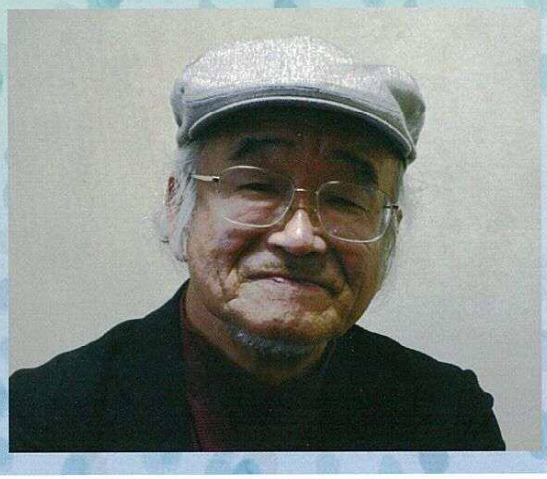
誰であっても、生まれてきたことによろこびを見出し、人生を意欲的に過ごしたいと願っています。ところが煩悩具足の凡夫である私は、自分の価値観で善悪を判断（邪見）するあまり日常生活に満足することができず、絶えず他人と較べて（慢）迷うばかりです。聖人が出遇われた念仏の教えとは、このような凡夫の身の事実を照らし出し、誰にも代わってもらうことのできない人生において、誰とも較べる必要のない自己に目覚めさせる法（はたらき）なのです。

凡夫の身を自己とし、親鸞聖人に先立って念仏の道を歩んでいかれた法然上人。そして法然上人もまた善導大師によびかけられて弥陀の本願に帰していかれました。時代を超え、民族の違いをくぐり抜けて流れてきた真実の教え。その伝統には時代を遡っていくよき人との出遇いがあります。

「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」（『歎異抄』）。私のいのちには生まれもってかけられている願い（歴史）があるのです。

群生海

「地域密着型のお寺を」



文京区在住　小泉 博昭 さん

今回は文京区千石の小泉博昭さんにお話をお伺いします。

西徳寺とはいつ頃から

西徳寺に出入りするようになったのは平成2年に父が亡くなってからですね。私は石川県小松の出身で、真宗の大谷派が多いところですが、うちはお西だったんです。彼岸やお盆の寺参りや、お内仏(仏壇)の御給仕(おきゅうじ)が当たり前の暮らしでした。父が同居するようになって東京の家に仏壇も一緒に来まして、また昔のように何の抵抗もなくお参りができるようになりました。こどもたちも自然にお参りしています。

西徳寺の大遠忌建設委員には

清水建設で設計の仕事をしてたものですから、親戚の西川口の小林斧二さんからの勧めもありまして引き受けました。そのこともありまして、仏教のお話を聞く機会も増えました。木村主任に本を紹介してもらったり、図書館に行って調べたりしたんですが、仏教の本は難しいですね。人を通して聞く方がわかり易いですね。

お寺に何か期待しますか

そうですね。職業病といいますか、私は、お寺さんは人と施設と場所がすごく豊富なんですよ、大きな企業と比較しましてもね。昔は寺町があってお寺と地域が密着していました。親近感が生まれますね。そういうことを通して、宗教心という方向へ還元できればいいと思うし、すごく自然ですね。この頃福祉施設に力を入れるお寺さんもあるけれど、お寺本来の在り方がいいのではと思います。もっと門戸を開放するというか、もっと前向きに何ができるのか考えたいですね。

今後はどのように

今67歳になったところですが、いろいろやりたいことが有るので70歳になったらもう少し、仏教に興味が湧くかもしれません。今はまだ積極的にとはいきませんが、設計の仕事を通じてお寺さんとの繋がりを大切にして行きたいと思います。

（聞き手　岸本住職）

正信偈の話②

「帰命無量寿如来　南無不可思議光」

松井憲一

法然上人に出遇って、「ただ念仏」に感動された親鸞聖人は、お念仏でなければ救われないことを讃える歌の製作にあたって、まず南無阿弥陀仏、すなわち「帰命無量寿如来　南無不可思議光」と、阿弥陀仏に全身を挙げて敬うことから始められます。

「帰命」は、インドの言葉「ナマス」を中国語に訳したもので、発音を聞いて漢字になぞった「南無」と同じ意味です。私たちは、いつも自分にとって都合のいい人や物を選び、不都合なものは嫌いと、ハサミのように他を切り捨てる生活をしています。沢山のごちそうも、好き嫌いの激しい人には、食べるものがありません。嫌いな人が多い人は、嫌われ者でもあります。しかし、そのような切り捨て御免の生活が、自分自身を縛り、自分の世界を狭くしていることに、気付かないのです。

そうした私たちの身勝手な行いに、どこまでも関わろうとする、阿弥陀仏のはたらきを無量寿（はかりなきいのち）といいます。つまり、「無量寿如来」の「無量寿」は、阿弥陀仏のわれらを「えらばず、きらわず、みすてることなく」救う慈悲をいい、その慈悲が現に私のところに来ていることを「如→来」、「如」いのちのまことが私のところへ「来」しているとあらわします。

つまり、私がここに生きてあることは、無量のご縁をいただいて「えらばず、きらわず、みすてない」世界が実現しているからです。だから、「しらざるときのいのちも、阿弥陀の御いのちなりけれども」（『安心決定鈔』）といわれるように、「南無阿弥陀仏は私のいのち」なのです。

しかし、「南無阿弥陀仏は私のいのち」と頷けるのは、何があってもまるごと救うという阿弥陀の慈悲が私に届いて、自分の都合でより分けてきた妄想に気付くときです。それで、「如→来」する阿弥陀仏は、気付かせるはたらきも、用意しているのです。

「南無不可思議光」の「不可思議光」は、阿弥陀仏のもう一面のはたらきである「無量光」（はかりなきひかり）の透徹した智慧をあらわします。ひかりが来て、はじめて闇であったと気付きます。太陽が出て夜が明けるのです。智慧のひかりは、不安と苦悩の底知れない闇は、自分の都合からしか発想しない私に原因があると、照らし出すはたらきです。

智慧を不可思議光とあらわすのは、仏のひかりは私の思いや言葉では表現できませんが、南無阿弥陀仏と「念仏もうさんとおもいたつこころのおこるとき」（『歎異抄』）に、思いを超えて闇の私であったと仏のひかりに出遇えるからです。まことに、念仏は、「自我崩壊の響きであり、自己誕生の産声」（金子大榮）であって、自分の思わくに死んで、事実をありのまま受けとめる、事実に生ききる喜びであります。

私たちは、社会生活をする以上、やりたくないこともし、組織や家族や国民の責任も果たさねばなりません。その限り、人に迷惑をかけずに生きていくことはできません。それなのに、無量のいのちを私有化し、自我をたてて混迷を深めています。そのような私に、阿弥陀仏に帰命（南無）する力などありません。だから、親鸞聖人は、南無と頭が下がってお念仏がおこるのは、「帰命は本願招喚の勅命なり」（『教行信証』）と、阿弥陀仏の願いが響いた、おかげであると感動されます。

「山門の言葉」

ふと虚しくなるのはなぜか

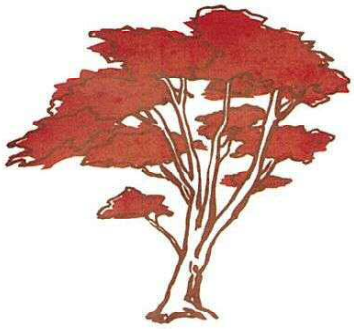
私は私自身を知らない

ふと、「こんな生活でいいのかな」と不安になるときがあります。すると私はその虚しさを消す方法を考え、結局友達に頼って気分を紛らわしたりしています。そうしていつも私は、気持ちをごまかしてその日暮らしをしています。

御聖教では、私は私の考えに依って過ごしていると説かれます。すぐに自分にとっての損得を考えて「これはいい、これは悪い」と区別します。

しかし、思い通りになってもならなくても、ふと虚しさが起きるのはなぜなのでしょうか。それは、そもそも私が自分自身のことをよくわからない、ということに気づかされます。

私のことを一人で考えてみてもわかりません。しかし、考えずにはおれないのもまた事実です。大切な問いをごまかすことしか出来ない毎日ですが、そういう私たちには気づいたときから「念仏申せ」と喚びかけがありました。

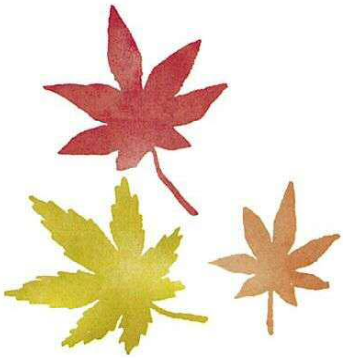


問いを持つ生活

念仏は虚しさを取り払ってくれるのでしょうか。念仏にはそのような力はありませんが、「虚しさとは一体何だろう、私の人生は何だろう」と私に問いかけるはたらきがあると思います。本当の私は何だろうか、そういう問いを虚しさは私に与えてくださっているのではないでしょうか。

念仏申して何になる、という私たちの考えに対して、親鸞聖人は「ただこの高僧の説を信ずべし」と力強く説かれます。一人で悩むのでなく、その声を聞き、問いを持ち続けていく生活こそ聞法生活であります。

（高橋淳　記）



報恩講ご案内

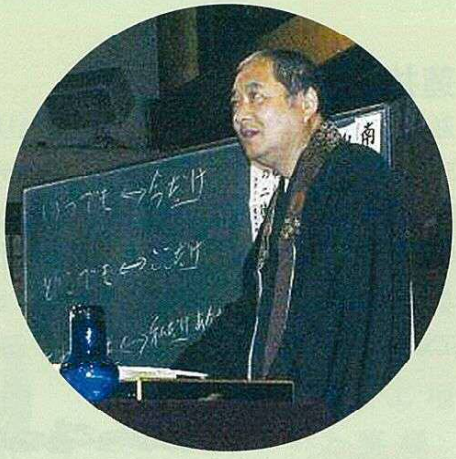
親鸞聖人のお手紙に、「仏の御恩を報じまいらせたまう・・・中略・・・聖人（法然）の廿五日の御念仏」とありますように仏恩（ぶっとん）を報じるために、お念仏していることがわかります。おそらく親鸞聖人とその同行（仲間）は、毎月の法然上人の御命日には、それぞれの地（関東各地）において集い、親鸞聖人から伝え聞いた法然上人のお徳を自らの上に戴くことを通して、「仏の御恩を報じ」られたのでしょう。このことは、やがて親鸞聖人がお浄土に帰られたとき、自然発生的に、同じような集まりを生み出します。その御命日である二十八日に同行が集い、親鸞聖人のお徳を讃えることを通して仏徳を讃嘆したのです。その後、佛光寺派では第三代源海上人のとき、『報恩講私記』が著され、親鸞聖人の祥月命日を「報恩講」としてお勤めすることが定着します。

「報恩講」とは、「仏教」を「念仏」として私たちに手渡してくださった親鸞聖人のご苦労をしのび、その「念仏」に遇い得た喜びを共にする仏事であります。大勢のご参詣、お待ちしております。

尚、この度の報恩講では、来年の４月にお迎えする「親鸞聖人 750 回大遠忌法要」に向けてレッスンを重ねている、西徳寺合唱団「エコー」の皆様による演奏会を予定しております。どうか皆様、ご期待ください。

記

１１月５日（土）	午前 10 時 30 分	初日中法要 ご法話
	正午から	お斎
	午後１時 30 分	大逮夜法要 御伝文拝読 ご法話
１１月６日（日）	午前 10 時 30 分	満日中法要 ご法話
	正午から	お斎
	午後１時 30 分	合唱団『エコー』演奏会
	午後２時	御満座法要 ご法話



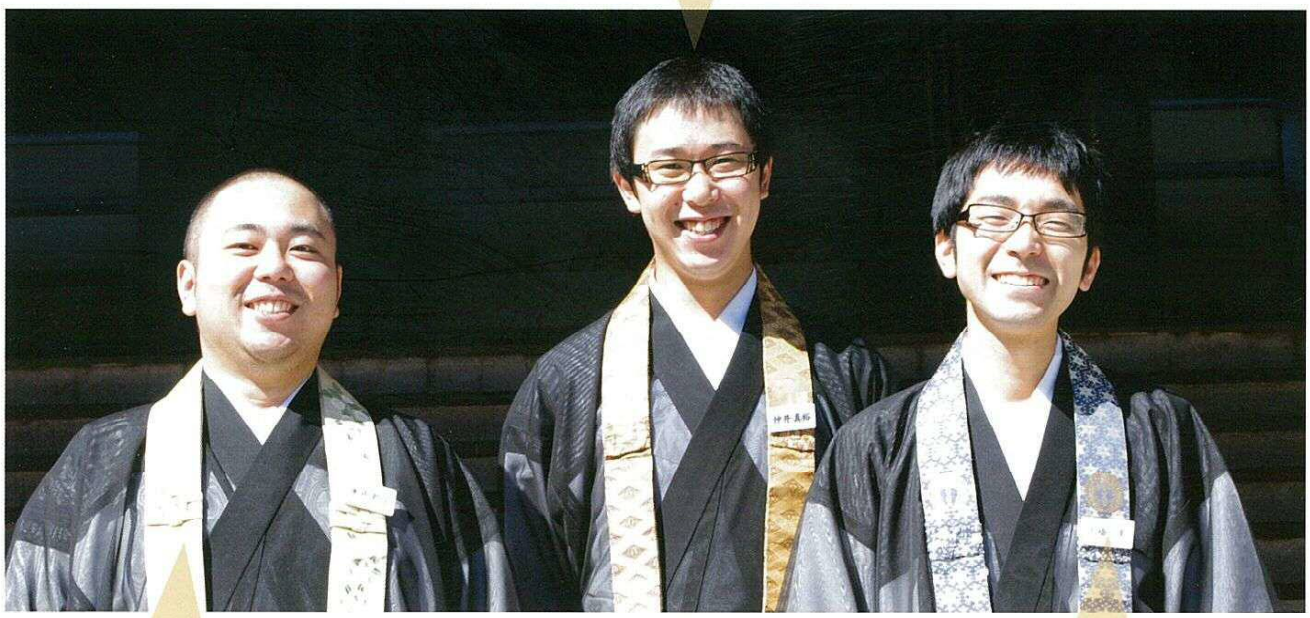
布教使　　滋賀県・栗東市　　浄光寺住職　永尾道雄　師

※お斎の申し込みは 10 月 31 日（月）までにハガキでお申し込みください。

自己紹介

仲井 真裕

平成21年3月から西徳寺で働いております仲井真裕（まさひろ）です。滋賀県草津市にあります常教寺（じょうきょうじ）出身、今年で28歳です。趣味は音楽鑑賞とスポーツ観戦で、特に野球が好きです。関西では珍しい東京ヤクルトのファンです。また、西徳寺の木村主任と山崎哲さんと一緒に早朝野球もしています。西徳寺では城東ブロックの担当をしていますが、まだまだ分からないことだらけです。門徒の皆さんと共に学んでまいりたいと思います。



蓮井 邦宗

滋賀県守山市にある西福寺（さいふくじ）から来ております蓮井邦宗（くにとし）です。昭和58年5月11日生まれの28歳です。西徳寺には平成21年1月からお世話になっています。西徳寺に来る前はオーストラリアへ語学留学をしていました。体のサイズは太めですが実は小心者です。慣れない東京での暮らしに悪戦苦闘していますが、いろいろな経験をして頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

高橋 淳

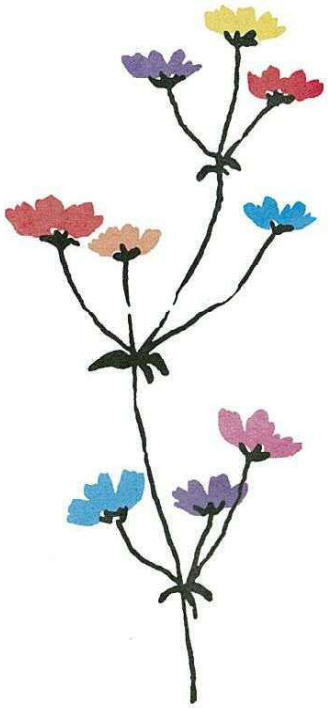
新潟県の出雲崎町にあります万因寺（まんいんじ）より参りました高橋淳（じゅん）（29才）です。西徳寺には平成20年3月より勤めております。他の職員よりやせています。音楽と鉄道が好きなので、話が合う方はぜひ仲良くしてください。

青年会からのご報告

毎年の恒例行事である西徳寺仏教青年会主催「バーベキュー大会」が8月28日（日）に開催されました。当日集められた会費や志を東日本大震災で甚大な被害を受けられた福島県の被災者の方へ、県の自治体を通じて僅かながら義援金として送金させていただきました。

御礼のお便りで佐藤雄平福島県知事は「地震と津波で多くの尊い命、財産を失い、さらに原発の事故、風評被害を加えた四重苦が現在も続いております」と仰っておられました。現地では未だに、私たちには計り知れないご苦労が続いているようです。

一日も早い被災地の復興と、被災者の方々がお元気で暮らしていかれますことを心から念じております。

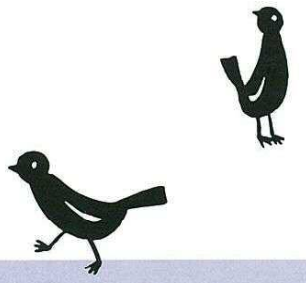


日　誌

8月27日・28日	宗祖忌
8月28日	青年会主催バーベキュー大会　（参加者142名）
9月3日	評議員定例役員会
	混声合唱団「エコー」練習
9月5日～9日	第十次聞法推進員養成研修会　（山崎・大橋）
9月6日	仏教青年会　『歎異抄』に聞く
	講師　宗 正元師
9月7日・8日	中興忌
9月8日	教行信証『信巻』に聞く（第71回）
9月10日	同行会『正信偈の教え』に聞く
	法話　木村主任
9月13日	責任役員会・総代会
9月14日	婦人会聞法会　本山リーフレットに聞く
	「大遠忌ってなに」
9月17日	定例聞法会
	混声合唱団「エコー」練習
9月20日～26日	秋季彼岸会
9月22日	秋季永代経法要
	法話　岸本住職　高橋 淳

えこお志お礼

武蔵野市	津田 直子 様
江東区	野口 一恵 様
栃木県	斉藤 吉郎 様
狛江市	酒見 はま子 様
逗子市	西村 チエ 様
さいたま市	井上 實 様
鎌ヶ谷市	鈴木 秀夫 様
熊本県	大谷 義文 様



「お悔やみ申し上げます」

去る7月28日、我が国を代表される仏師、高村晴雲（克哉）先生がかねて療養中の甲斐もなく、享年72歳をもって御逝去されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

師は元総代、若林成和氏の懇願により、西徳寺本堂に中興了源上人の一木造りの御影を制作された方であります。

掲示板

10月

1日(土) 午後3時半 **混声合唱団「エコー」練習**

8日(土) 午後6時 **同行会「正信偈の教え」に聞く**
法話　山崎　哲

9日(日) 午後2時 **中央ブロック会総会・聞法会**
(西徳寺)

15日(土) 午後1時半 **定例聞法会**

16日(日) 午後2時 **城東ブロック会聞法会**
(小岩区民館)

18日(火) 午後7時 **仏教青年会座談会**

19日(水) 午後1時 **婦人会聞法会　本山リーフレットに聞く**
「私の親鸞さま」

20日(木) 午後1時半 **教行信証『信巻』に聞く**(第72回)
講師　宗　正元師

22日(土) 午後3時半 **混声合唱団「エコー」練習**
午後6時 **同行会「正信偈の教え」に聞く**
法話　神山　多加志

29日(土) 午後3時半 **混声合唱団「エコー」練習**
(第二会館)

30日(日) 午後2時 **城南ブロック会聞法会**
(目黒さつき会館)

11月

5日(土)・6日(日) **報恩講**
両日布教使　永尾　道雄師

12日(土) 午後3時半 **混声合唱団「エコー」練習**
午後6時 **同行会「正信偈の教え」に聞く**
法話　高橋　淳

13日(日) 午後2時 **城西ブロック会聞法会**
(中野商工会館)

15日(火) 午後7時 **仏教青年会報恩講**

19日(土) 午後1時半 **定例聞法会**
午後3時半 **混声合唱団「エコー」練習**

20日(日) 午後2時 **城北ブロック会聞法会**
(大塚　大和田)

22日(火) 午後1時半 **教行信証『信巻』に聞く**(第73回)
講師　宗　正元師

26日(土) 午後6時 **同行会「正信偈の教え」に聞く**
法話　大橋　伊知郎

27日(日) 午後5時半 **ヒナタカコ　コンサート**
(西徳寺本堂)

30日(水) 午後12時半 **婦人会食事会**
(上野の杜　韻松亭)

編集後記

約五年半ぶりに再刊された『えこお』ですが、ご門徒の皆様からは様々なご意見が寄せられました。「長いこと待ってましたよ」とか「再刊されてとてもうれしいです」など励ましのお言葉をかけてくださる反面、「専門的でむずかしい」「活字ばかりで……」など厳しいご批判もいただきました。いずれにしましても、皆様の声を大切にこれからも編集に携わっていきたいと思います。　(木村主任)

西徳寺ホームページアドレス：http://saitokuji.tobiiro.jp/